

火の鳥 巣箱にんみゃーち!!!

「ようこそ」の宮古島方言

浜地歩 植村慎吾 (大阪市立大学)

目的

鳥類の基礎生態を把握することは、保全計画や生態学的な研究の基本となる情報を提供するために欠かせない研究である。鳥の生活史のなかでも繁殖生態は、縄張り、孵化の順番、餌、給餌頻度、繁殖行動の雌雄分担、ヘルパーやつがい外交尾の有無など、保全や応用的な研究をする上で必要な情報を多く含んでいる。

ところが、樹洞性の鳥では繁殖生態について巣内のモニタリングが難しく、このような研究が行いにくい。アカショウビンでも、自然巣は枯れ木やタカサゴシロアリの巣なしど脆い巣材に作られることが多く、警戒心も強いため、繁殖生態のモニタリングはほとんどされていない。こうした、営巣様式や生態的な制約から繁殖生態を調査することが難しい鳥種では、巣箱を用いた調査を行うことが効果的である。巣箱を用いることで巣内カメラやデータロガーなどの設置などが容易になり、鳥への影響を最小限に抑えながら繁殖生態の情報を効率的に得られる。

ところが、アカショウビンのように自ら穴を開けて造巣する鳥を巣箱に誘致することは難しい。これまでに発泡スチロール製の巣箱が用いられたことはあったが、代替の素材が必要である。申請者らは、2014年からコルク製の巣箱への亜種リュウキュウアカショウビンの誘致を試みている。2015年には初めて1つがいの繁殖が確認されたが、現在のところ巣箱の設置数や巣内を観察する方法が十分ではなく、今後、構造を改良した巣箱を設置する必要がある。

本研究では、コルク製の巣箱を用いてアカショウビンの繁殖生態を記録することを目的とする。

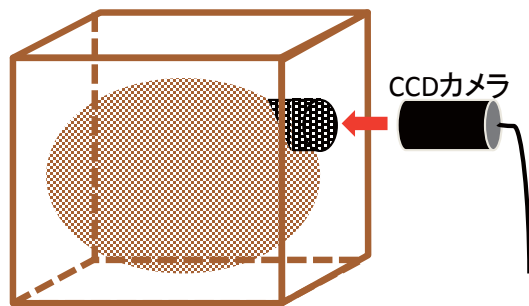


- 左から
- ・巣立ち直前の雛
 - ・巣立ち直後の幼鳥
 - ・成鳥の計測の様子
 - ・2015年の巣箱

方法

2016年の4月から8月にかけて繁殖行動を記録する。アカショウビンは捕獲して個体識別のための足輪装着と計測を行い、雌雄判定のために採血も行う。

2015年までにかけたコルク製の巣箱を、CCDカメラやデータロガーなどを取り付けられるように改良して宮古島大野山林に設置する。



巣箱の改良図

(背面が木、前面を掘らせる)

- コルク材の中心部をくりぬき、中におがくずを詰める。
- CCDカメラを取り付けるための穴を開ける(繁殖開始までは栓をしておく)

撮影したビデオから、孵化、餌、給餌頻度、ヘルパーやつがい外交尾の有無などを分析する。データロガーの記録から、抱卵交代のタイミングや雌雄分担などを分析する。

アカショウビン

日本には夏鳥として2亜種の飛来が確認されており、亜種アカショウビンは屋久島以北の深い森林に生息し、なわばりが広く、調査が難しい。亜種リュウキュウアカショウビンは南西諸島に飛来し、孤立林や海岸林を含む多様な環境に高密度に生息している。

期待される展開

巣箱への誘致が安定し、詳細な繁殖生態が解明されれば、亜種間比較などの研究も可能となり、また保全策にも活用可能である。

必要経費など

本研究の実施にあたって、CCDカメラとデータロガーの購入を予定している。この他に、交通費などの確保が必要である。

また、研究結果の公表については、バードリサーチへの成果報告の他に、国際誌への投稿や学会発表などを予定している。